

回腸原発悪性リンパ腫が誘因となつた高齢者腸重積症の1例

なが み ほる ひこ 田 ばら ひで き こ だま わたる
 長 見 晴 彦¹⁾ 田 原 英 樹¹⁾ 児 玉 渉¹⁾
 せ しも たつ ゆき おお たに ゆう た ばら なり やす
 瀬 下 達 之¹⁾ 大 谷 裕¹⁾ 田 原 成 泰¹⁾
 ゆう き み か こま ざわ よし のり あら かき まさ とし
 結 城 美 佳²⁾ 駒 澤 慶 憲²⁾ 新 垣 昌 利²⁾
 まる やま り る け
 丸 山 理留敬³⁾

キーワード：高齢者腸重積症，DLBCL，腹腔鏡下手術

要 旨

今回、回腸末端部の原発性悪性リンパ腫：びまん性大細胞型 B リンパ腫 (DLBCL) による回腸結腸型腸重積症の 1 例を経験した。症例は 97 歳男性で主訴は腹部疝痛発作及び嘔吐であった。腹部超音波、腹部 CT にて腸重積症の所見を認め、大腸内視鏡検査により回腸末端部から腫瘍の盲腸内への脱出を認めた。切除標本では腫瘍はバウヒン弁より約 13 cm 口側の回腸末端に存在し大きさは約 26×21mm の結節性病変で組織学的に異型細胞のびまん性増生から構成され、免疫染色で CD20(+), CD79a(+), CD10(+), BCL2(+), BCL6(+), MUM-1(+), CD3(-) であり DLBCL と診断した。なお本症例に対して腹腔鏡下回盲部切除・リンパ節郭清を行い術後 10 日目に軽快退院した。成人腸重積症は比較的稀な疾患であり、なかでも小腸悪性リンパ腫による超高齢者の腸重積症は極めて稀であるが、腹腔鏡下腫瘍切除を行い良好な結果を得たので報告する。

はじめに

成人腸重積症の全腸重積症に占める割合は 5～16%とされ、その 80～85%が器質的病変を伴った

二次性である¹⁾。また成人腸重積症は慢性的な経過を示し特異的な症状に乏しく、その診断も困難な場合がある。今回われわれは回腸末端原発性悪性リンパ腫による超高齢者腸重積症の 1 例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

症例

患者：97歳，男性

主訴：腹痛，嘔吐

現病歴：2020年 X 月 X 日中旬，夜間に胃部不快

Haruhiko NAGAMI, et al.

1) 出雲徳洲会病院外科

2) 出雲徳洲会病院消化器内科

3) 出雲徳洲会病院 病理部

連絡先：〒699-0631 島根県出雲市斐川町直江3964-1

出雲徳洲会病院 総合診療科